

山形教区報

発行 天理教山形教務支庁 〒994-0027 天童市桜町11番1号
TEL 023-656-8420 FAX 023-656-8425
編集 広報部 E-mail y_kohobu@yahoo.co.jp

立教182年

1月号

第133号



年頭あいさつ

教区長 森井昭司

明けましておめでとうございます。

今年は積雪の多い中ではありますが、穏やかな新年を迎えさせて頂き、身も心も平穏な気持ちで過ごさせて頂きました。

さて、昨年を振り返りますと、一年を表す漢字が「災」となりましたように、全国各地で地震、水害、台風などの自然災害が発生し、また、夏には最高気温が40℃を越す地点が続出し、猛暑日の日数の記録が更新されるなど、その過酷さは「命に危険を及ぼす」状況とまで報道されました。更に、教内においては、真柱様に身上のお手入れをお見せ頂き、「おさづけの理」が拝戴出来ない状況が長く続いております。親神様の懐住まいをさせて頂く私達お互いは、こうしたことを親神様からの厳しいお知らせと悟らせて頂き、しっかりと成人へ向かう思案をさせて頂かなければなりません。宮森与一郎内統領先生は、昨年の秋季大祭の神殿講話で、

「真柱様がお戻り下さるときには、皆が心をそろえて勇んでひながたの道歩んでいる姿をご覧いただけるよう、いまこそ精いっぱいにおちばに心を尽

くして、たすけ一条に邁進させていただきましよう」とお話下さいました。

更にはまた、真柱様には、同じく昨年の春季大祭の神殿講話において、

「あらためて、世界一れつの陽気ぐらしという私達の目標を見つめ直し、何よりもお互いがしっかりと心をつなぎ合い、一手一つに一步一步、地に足の着いた歩みを積み重ねていきたい」

とお話し下さいました。私達はこのお言葉の本旨をよく心に治め、教会長と言わず、よふぼくと言わず、互いが心を繋ぎ合い、一手一つとなるために、教祖の教えを心に、談じ合いの精神とその実行を大切にしていきたいものであります。

おさしづに

皆々談じ合うてすれば、どんな事でも出来て来る。

(明治27・6・29)

とお示し頂きます。私達は今こそ、おちばに心をつなぎ、親神様がお待ち望み下さる陽気ぐらし世界建設の道具衆として、親神様のお急き込みに、それぞれが今出来る事をしっかりと思索し、横の繋がりを生かし、互いに助け合い切磋琢磨して、教祖よりお教え頂いた教えを広く世界へ広め、人を育てる努力に邁進させて頂きましよう。

教区管内の皆様には昨年同様、それぞれのお立場で一層のご尽力を賜りますよう心からお願ひ申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

第九回 少年会総会

少年会山形教区団(中森芳郎団長)では、11月3日、教務支庁において第9回少年会総会を開催した。お道の次代を担う人材を育成し、親神様、教祖にお使い頂ける道具衆として立ち働くようべく育てることが急務とされるこの旬、3年ぶりに開催された総会には、教区管内各地より大勢の少年会員、育成会員らが参加した。

当日は、始めに親神様、教祖、祖霊様を参拝。今回の少年会総会は、昨年のこどもおぢばがえりで、少年ひのきしん隊を無事につとめさせて頂いたお札を兼ねていることから、少ひ隊に参加した少年会員を中心にして祭儀式がつとめられた。続いて、



フライドポテト、ワッフルなどのメニューを楽しんだ。昼食後はお楽しみ行事として、少年会名古屋団「山形チェリーズ鼓笛隊」の鼓笛演奏が披露され、また室内オリンピックが開催されるなど、工夫が凝らされた催し物で、会場は大いに盛り上がった。

座りづとめ、よろづよ八首総立ちがつとめられた。式典では、少年会長様より頂戴した御告示が読み上げられ、また、来賓として出席された森井昭司山形教区長が祝辞を述べた。その後、少年会員代表と共に、参加者全員で声高らかに「ちかい」の言葉を唱和。続いて、中森団長があいさつを述べ、最後に「少年会の歌」を斉唱し、式典が終了した。

昼食には、各支部より模擬店が出され、参加者達は豚汁やフランクフルト、

団長所信

真柱様は、道の後継者育成の上に、機会を捉えてそのお話しをお話し下されています。私が教区団の団長の御命を頂いて、早くも1年4カ月が過ぎました。昨年は何も分らないままに、少年ひのきしん隊本部練成会への参加や少年会教区総会の開催など、手探りのような状態でありましたが、皆様のお力添えのお陰をもちまして、無事につとめさせて頂くことが出来ました。

私共の教会や皆様の教会の初代様や先人先生方は、この厳寒の山形の地で大変な苦勞を味わいながら、先祖の御教えを伝え広め、次代へと信仰を繋いで下さいました。今後も次代の育成の上に、皆様のお力添えを頂きながら、真柱様にもご安心頂ける私達にならせて頂きますよう、努力させて頂く所存でございます。重ねてのお力添えをお願い申し上げます。

少年会教区団長 中森芳郎



さくらんぼの会 後継者講習会 事後丹精の集い



11月10日、後継者講習会の事後丹精行事「さくらんぼの会」が、教務支庁を会場に開催され、12名が参加した。

この行事は、昨年3月までおちばで開催された後継者講習会受講後の継続的な丹精を重視する上から、教区管内の若い方々の育成や親睦を目的として、教区を挙げて様々な準備を整え、開催されたもの。

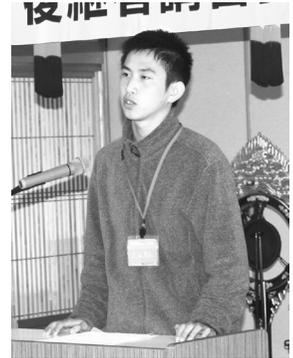
当日は、始めに親神様、教祖、祖霊様を参拝。続いて、森井昭司教区長が挨拶を述べた。

また、開講に先立ちウォーミングアップなどが行われ、受講者の緊張がほぐれたところで、後継者講習会で係員をつとめた佐々幸雄米澤分教会長より、同講習会の開催趣旨やプログラムなどが説明され、期間中の自身の体験談が披露された。

続いて、同講習会を受講した3名の若者が感話を行い、受講に至る経緯や受講しての感想、その後の自身の変化などを振り返り、口々に今回の講習会の素晴らしさを話した。

その後、3班分かれてグループトークが進められ、練り合いシートを元に、それぞれが感話を聞いて感じたことや、この日の感想などを発表した。参加者からは、「普段の生活の中では、ほとんど口にしたり聞いたりすることが出来ない話に触れることが出来て、本当に良かった」「またこのような行事があれば参加したい」などの感想が聞かれた。

昼食には、婦人会が用意した芋煮とおにぎり、またデザイナートバイキングを楽しみ、合間には青年会が準備したお楽しみクイズ大会などで和やかなひとときを過ごし、短いながらも充実した時間を過ごした。



学生会総会 開催



12月9日、教務支庁を会場に、山形教区学生会総会が開催され、学生会員3名を始め学生担当委員など総勢8名が参加した。

当日は始めに、おつとめ練習を行い、続いて、全員で座りづとめ、よろづよ八首がつとめられた。その後式典が行われ、高橋惣汰・教区学生会委員長の挨拶に続いて、松村孝吉・天理教学生担当委員会委員長の祝辞が披露された。その中で松村委員長は、昨年3月に開催された「春の学生おぢばがえり」における真柱様のお言葉の中から、「教会の使命は、一つには教祖の教えを一人でも多くの人に伝えて苦しみや悩みをたすけ、この道を広めること。また一つは、おつとめを勤めて人々の幸せを願う世の中の治まりを願うこと。さらにもう一つは、教会に陽気な雰囲気をつくり出し、土地所の陽気ぐらしの源となることであります」とのお話を引用され、教会へ繋がることの大切さをお諭し下された。

続いて、高橋惣一・教区学生担当委員会委員長が、当たり前と感じる日常の中に、親神様の御守護が溢れている、との講話を行った。

式典後には、昼食をとりながら、互いの親睦を深め合い、その後、学生会活動を紹介するDVDを鑑賞。一人でも多くの仲間に学生会活動についての理解を深めてもらい、たくさん行事に参加してもらえよう、殊に、3月28日に開催される「春の学生おぢばがえり」へ大勢の仲間に参加してもらえよう、ねりあいを行った。

中央支部 第10回天理時報

手配りひのきしん者の集い

12月16日、中央支部(高橋惣一支部長)主催の『天理時報』手配りひのきしん者の集い 第10回記念総会が開催された。

当日は、手配りひのきしん者を含む20名が教務支庁に参集。始めに親神様、教祖、祖霊様を礼拝。続いて高橋支部長が挨拶に立ち、10年間の歩みを振り返りながら、日頃の実動を労った。

その後、「内容1」に入り、「立教182年度実践プラン」として、①「手配りひのきしん臨時お届けサポーター制」の導入、②「天理時報」よみ×こみメソッド」の展開の2点が発表された。これは、「ようぼく家庭に、もれなく『天理時報』を」と「手配りひのきしんで、教友の絆を強めよう」との手配りひのきしんの活動スローガンや、昨年開催



された『天理時報』普及推進大会」における井筒梅夫布教部長先生のお話を受けて、支部としての重点目標を策定し、具体的に推進するために考案されたもの。會田責任者が2点の趣旨と実施方法について説明し、次代を担う若い世代にも積極的に参加を呼び掛けてもら

いたい、と話した。

休憩後、「内容2」では、『天理時報』よみ×こみメソッド」の演習が行われた。三つの班に分かれた参加者は、各自持ち寄った時報の中から、特に印象に残った記事の一つを選び、それを切り抜いて台紙に貼り付け、選んだ理由やコメントを書き込んだ。

続いて、台紙を模造紙に貼り付け、大きな一枚の「けいじばん」に仕上げた状態で、順番にその記事を選んだ理由を発表した。班毎の意見交換終了後、各班代表者が模造紙をホワイトボードに掲示し、どのような記事が出されたかについて紹介した。

参加者は、記事を選び、発表するという作業、また時報の隅々にまで目を配り、自分の考えを整理しながら意見をまとめるという体験を通して、より時報に主体的に向き合う機会を得ることになった。

なお、当日は道友社本社より2名の課員が来庁。特色ある『天理時報』の活用方法の様子を、熱心に取材していた。(取材記事は時報1月13日号に掲載予定)



第2回 雅楽初心者講習会



山形楽奏では、11月10日、「第2回 雅楽初心者講習会」を開催し、4名の参加者が熱心に受講しました。

当日は、箏篳と龍笛のパートに分かれ、雅楽の基本的な演奏姿勢についての説明の後、平調「越天楽」の唱歌から練習を始め、管の吹き込みの練習を行いました。受講者4名の内3名は全くの初心者で、その中の2名は小学生ということもあり、最初は音を出すこともままならず、苦しむ場面もありましたが、練習を繰り返すうちに、次第に曲に合った音が出るようになり、一人ひとりが雅



楽の雰囲気を楽しみながら、最後まで真剣に練習に打ち込む姿が見られました。

講師は私が箏篳、高橋惣一先生に龍笛を担当して頂きました。これからもそれぞれの演奏レベルに合わせた講習会を数多く開催し、教区内の雅楽愛好者のニーズに添えつつ、全体としての技量の向上を図って行きたいと存じます。また、雅楽演奏のご要望などがあれば、遠慮なくお問い合わせ下さい。

報告者 藤野徹・山形楽奏代表

【訃報】

川 定子氏 東部分教会八代会長夫人(島ヶ原大)が
12月28日出直された。享年82歳。 中央支部

教務支庁日誌

11月

- 2日 主事会 教区例会 少年会おつとめ総会準備
- 3日 少年会おつとめ総会
- 6日 中央支部例会 同神名流し・路傍講演 婦人会例会

10日 さくらんぼの会 雅楽初心者講習会〜11日

18日 女子青年例会

24日 中央支部ハートクリーン

12月

1日 たすけ推進委員会 主事会

2日 教区例会 地方委員会

青年会例会 同神名流し 同忘年会

6日 中央支部例会 同神名流し・路傍講演 忘年会

婦人会例会

9日 学生会総会

16日 中央支部天理時報手配りひのきしんの集い